訃 報

—謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

福内 久 殿(建設部門)
平成 23 年 2 月 19 日逝去 49 歳

佐藤 史夫 殿(建設・応用理学・総合技術監理部門)
平成 23 年 4 月 8 日逝去 66 歳

■ ■ ■ 編 集 後 記 ■ ■ ■

想定外、未曾有、水素爆発、AC 広告、臨界、警戒区域、メルトダウン、工程表、自然再生可能エネルギー、一定の目途、ホットスポットなど、メディアでは週単位でキーワードが入れ替わりました。中には“危機管理の管理危機”とか“自粛を自粛する”のように、政府や世間の対応を揶揄する表現も散見されました。技術士としてその都度クローズアップされるキーワードをどう受け止めて解釈すべきか、この 3 カ月間は本当に神経が研ぎ澄まされた感が否めません。

この東日本大震災では、改めて日本メディアの報道規制に落胆しました。公共電波による不特定多数への情報発信との立場は理解しますが、もう少し客観性の高い報道を切望する次第です(軽微な情報操作など黙認してしまう国民性もありますが)。また、自然災害である地震・津波による社会基盤の被害と人災とも言える「Fukushima」とは、より一線を画した対応や報道がなされるべきであるとも感じました。おっと本欄は編集後記でした。これ以上の主張は別の機会に……。

閑話休題。この 124 号ではじめて編集担当を経験しました。表紙写真の選定はその号の編集担当者の特権です。初夏の発行のため清涼感の漂う写真をとりましたが、トラウマと言う訳ではありませんけど、やはり水が映っていない風景を選択してしまいました。編集担当の作業は結構大変であるとは聞いていましたが、執筆者のみな様のご協力や広報委員のバックアップのもと、何とか発刊に漕ぎ着けることができました。ここに改めて謝意を述べさせていただきます。

最後に本誌は愛読者みな様からの投稿があって成り立つ会報誌です。投稿のお得意様にはこれからも、初めて投稿される方も是非、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

第 124 号編集担当 知本康男